

シリーズ「放課後子ども教室推進事業」

(初中教育ニュース (初等中等教育局メールマガジン掲載))

【第19回】

放課後子どもプランを一体化での開設

茨城県取手市立取手小学校長 中嶋 保夫

取手小学校では、これまで小学校1年生～3年生の留守家庭の子を対象とした児童クラブを開設し、夏休みには取手市独自の取組である、6年生までを対象としたサマーサポート事業を併せて実施してきました。また、平成18年度からは児童クラブの拡大版として、6年生までを対象として保護者の就労の有無を問わずに預かる「子どもの居場所づくり事業」を創設し、随時モデル校を設けて展開してきました。

そのような中、本校では平成20年度から敷地内にあるクラブ室や校庭などを活動場所として「放課後子ども教室」と「放課後児童クラブ」を一体化した「取手小放課後子どもクラブ (放課後子ども教室)」を開設しました。

子どもクラブ (放課後子ども教室) は、登録児童97名 (全校児童数は507名) で、日々50～60名の参加児童を、指導員5～6名体制で児童の安全確保や健全育成に努めています。

活動内容は、室内で宿題・読書・ゲームなどで過ごすほか、外遊びでは、サッカー・一輪車・ブランコ・ドッジボールなどで過ごしています。夕方5時に集団下校となり、その後7時までのこる「児童クラブ」の子は保護者が迎えに来ます。

3名の学習アドバイザーの方が市内の子どもクラブ (放課後子ども教室) を回り、宿題などのサポートをしてくれています。また、地域の皆さんによるボランティア団体「ボランティアときめき」にベーゴマやお手玉などの昔遊びを教えていただいたり、夏休みを利用して、更生保護女性会の皆さんに工作などをご指導いただいたりしています。

子どもクラブ (放課後子ども教室) を開設して感じることは、異年齢集団活動の良さが多く見られることです。また、集団生活でのマナーやルールも自然に身につき、校庭でも安全に活動できるので、保護者は安心して預けているようです。さらに、指導員や学習アドバイザーといった多くのボランティアの方々と接することができるので、心の成長にもつながっている気がします。

今後、放課後子ども教室としての学習支援の充実が一層図れればと考えています。

(初中教育ニュース (初等中等教育局メールマガジン) 第113号に掲載)